



# おokayま県民文化祭参加 第二十六回岡山県現代俳句協会俳句大会



第 51 号

令和 4 年 3 月 発行

とき 令和三年十月三十一日(日)  
ところ 岡山県ゆうあいセンター

今回の俳句大会では、コロナ禍も一時的に収束に向い、当日は大会の開催にこぎ着けることが出来ました。

好天に恵まれる中、会員一同なかなか会えない中で大会出席者の元気な笑顔が印象的であった。

定刻十三時より前田宏・土屋鋭喜(事務局)の司会で開会。木村ゆきこ会長より「コロナ禍の中、日頃句会の機会が減っており有意義に皆様の意見を交換出来る場としましょう。」の挨拶から始まる。

大会選句経過ののち、特選句・入選句の披露が黒瀬琢葉監査、岸本順子幹事より行われる。俳句大会の講評へ移り、会長・副会長・顧問からさまざまな切り込んだ意見が交わされ、参加者の意見交換へと続きマイクの消毒を行いつつ議論が活発に行われた。

表彰式は、木村会長から賞状並びに賞品を授与され、句友からの拍手が送られた。恒例であった席題句の当日句会は、参加が長時間となるため感染への配慮から今回も中止とした。

投句作品は、コロナ禍の中で投句者五二名 投句数三二〇句という状況で昨年に比べ、投句者数は大きく減少したが、投句数は逆に一割ほど上回る状況であり参加会員のご健吟のほどがうかがわれる。

おokayま県民文化祭参加事業として開催された俳句大会は佐野由魚副会長の挨拶により全日程を終了。コロナの感染防止のためマスクの励行、体温計のチェック、消毒液の設置を行うなどの対策を行い、終了後の感染報告もなく無事終了することが出来た。

(前田 宏)

# 第二十六回岡山県現代俳句大会受賞作品

## 作品鑑賞

黒瀬 琢葉

【おかやま県民文化祭賞】

白玉つるり月蝕を見そこなふ

秋岡 宣子

【中国地区現代俳句協会会長賞】  
島根県現代俳句協会会長 月森遊子賞

【岡山県知事賞】

蔵町や路地の幅だけ秋の空

花房 典子

八月の耳の底では「海ゆかば」 佐野 由魚  
鳥取県現代俳句協会会長 植垣規雄賞

【岡山県議会議長賞】

幾万の沈黙の椅子夏五輪

沼本 養卬

夏の果ひとつずつ消す修飾語 木村ゆきこ  
山口県現代俳句協会会長 久行保徳賞

【岡山県教育委員会教育長賞】

命ある者は帰るな門火焚く

難波 正夫

盛り塩のひときわ白き夜の秋 木村ゆきこ  
広島県現代俳句協会会長 川崎益太郎賞

【岡山県現代俳句大会賞】

彼の世へとつながりそうな蜘蛛の糸

薄 和子

幾万の沈黙の椅子夏五輪 沼本 養卬  
岡山県現代俳句協会会長 木村ゆきこ賞

書き込みの多き楽譜や蝉しぐれ

中野 澄子

さちさちの着地は何時もつんのめる 難波 正夫

もう少し生きる途中の桃食べて

木村ゆきこ

【奨励賞】

萩の風村で一軒赤子泣く

目賀 紀子

13点 宮下哲朗

惑星の昼夜を借りる梅庭

高村 蒿青

10点 三村榮一

枝豆のおほかた夢も青いはず

前田 宏

9点 伊藤 昇、黒瀬琢葉

九月かなミン目ゆつくり切りはなす

佐藤 千恵

8点 國富柿方

稲の花父の手紙の軽さかな

小西 瞬夏

7点 岩田志乃、保田紺屋

生きすぎの欲まだ失せずホテル追う

片岡 陽子

NOといふて上顎離る舌涼し 永禮 宣子

打水や四十五億年の地球

永禮 宣子

「NO」と英語で発音してみたら分かる。上顎を離れると舌は涼しく自由になる。NOと言いたくても、なかなか言えない自分、そして多くの人達。勇気を出してNOと言ってみようよ。道が開けるかも。この発想がユニークで凄い。

八月の耳の底では「海ゆかば」

佐野 由魚

幾万の沈黙の椅子夏五輪 沼本 養卬

無駄な一語もない時事句の傑作。コロナ禍の日本で開催された夏のオリンピック。競技場のカラフルな無人の椅子に、かえって寒々しい印象を抱いた。無人、無言の椅子は何かを象徴し、何かを訴えているようである。

無駄な一語もない時事句の傑作。コロナ禍の日本で開催された夏のオリンピック。競技場のカラフルな無人の椅子に、かえって寒々しい印象を抱いた。無人、無言の椅子は何かを象徴し、何かを訴えているようである。

無駄な一語もない時事句の傑作。コロナ禍の日本で開催された夏のオリンピック。競技場のカラフルな無人の椅子に、かえって寒々しい印象を抱いた。無人、無言の椅子は何かを象徴し、何かを訴えているようである。

第二十二回吟行会

犬養木堂吟行記

土屋 鋭喜

とき 令和三年十一月十四日(日)  
ところ 岡山市 犬養木堂記念館 木堂塾



「話せばわかる」の一言を残して五一五事件の凶弾に倒れた犬養木堂。今年度の吟行会は、10月25日に総勢23人で岡山市庭瀬にある犬養木堂記念館を訪ねた。生家には大楠や古井戸、記念館では石路の花が迎えてくれるなど句材には

事欠かなかつた。

思えばコロナウイルス感染が落ち着いた隙間のようなタイミングでの吟行であった。印象にある句を紹介して吟行報告とする。

木堂のこみち巡りて木守柿 景

駐車場から木堂邸までは「木堂のこみち」と名付けられ、途中木堂の記念碑などが点在する。生家の土間を抜けて裏庭に出ると「木守柿」が待っている。地域の方によつてよく整備された旧宅である。

木堂の太き恕の字や石路あかり 幸枝

木堂の健筆は有名であるが、「恕」は秀逸である。暗殺された木堂が「恕(ゆるす)」とは、実に皮肉である。石路あかりが効いた一句。

削ぎ落したる木堂の貌冬に入る 柿方

晩年の木堂の写真を見るとよく瘦せたしわの深い顔である。しかし眼光だけは鋭い。大陸進

出を進める軍部の圧力と議会政治の常道との狭間で苦悩する宰相であった。

「顔」をあえて「貌」と記載したこと、その厳しさが克明となった。



主な作品

木堂の太き恕の字や石路あかり

小峠 幸枝

照紅葉話せば解る人と会う

國富 節子

身に入むや木堂の言永久に

右手 采邇

木堂のステッキくるり小鳥来る

土屋 鋭喜

削ぎ落したる木堂の貌冬に入る

國富 柿方

話せばわかる木堂生家の囲炉裏の間

薄 和子

木堂の額書に恕あり小春かな

黒瀬 琢葉

木堂の言葉あたたためる小春

鈴木 文子

出番なき生家の井戸や鴨鳴いて

木村ゆきこ

木堂の墓石の蔭や帰り花

見手倉美砂子

木堂に学ぶ信念秋の館

川端恵美子

人と道説く木堂館冬に入る

永禮 宣子

まぼろしか木堂の背に赤とんぼ

遠藤 智子

悠悠と備前大甕石路の花

沼本 養卯

木堂の書にも男気冬ぬくし

花房 典子

石路の花昼の密度となりけり

小西 瞬夏

吾子あての便りに落葉黄の残る

森田 景

小春日や木堂のつぶやき甦る

福島 閑雀

五百人のパノラマ写真冬の鵬

藤原由美子

古井戸の綱の朽ち果て石路の花

岩田 志乃

山茶花や命の井戸の庭真中

畦田 恵子

八十九年木堂逝つて秋の冷え

佐野 由魚

縁側の光やわらか冬日和

前田 宏

令和三年度後期 新会員

作品集

令和三年度後期の現代俳句協会への新会員として、推薦し、承認を得た。  
ここに作品を特集して紹介にかえる。

中野 澄子／糠床

振り出しの独りとなりて雛飾る  
箆袋の畳まれてある臙の夜  
父のこと今なほ知らず臙月  
木の椅子の将棋指す爺園薄暑  
小鳥来るピアノのとどく誕生日  
旅立ちの人待つ駅や肩寒し  
小春日や白髪ほめ合ふ同年  
リハビリの迎えを待ちて今朝の霜  
青天と競いて盛り冬紅葉  
丹念に糠床まぜて年終る

宮下 哲朗／初燕

異次元を旅するやうに雛めぐり  
引越しの娘の新居初燕  
短夜や机の上に未完の句  
ラムネ飲む地軸を少し傾けて  
菊花展「富士の裾野」といふ形  
野良猫の知己のごとく来漱石忌  
墓碑にある甥の名前や昼の虫  
杖借りて登る古刹や野水仙  
廃屋となりゆく生家路の臺  
一人居の鰯の小さき注連飾

新会員候補者推薦のお願い

新会員候補者は、会員各位の個人推薦により選出されることとなります。  
会員のみなさまの周辺に、協会員に相応しい方がおられましたら、所定の「入会申込書」により、是非、ご推薦くださるようお願いいたします。  
推薦いただいた方は、会長の承認を得て会員となつていただきます。  
なお、「入会申込書」は随時受け付けますが、入会日は入会手続き終了後となります。

現代俳句協会

列島春秋

地区別現代俳句歳時記  
二〇二二年掲載

- |     |                |       |
|-----|----------------|-------|
| 一月  | 雑煮好き四代先まで続きをり  | 畦田 恵子 |
| 二月  | 立春に片足乗せて鬼退治    | 倉見 英子 |
| 三月  | 鯖東風すり抜け瀬戸の斜張橋  | 小峠 幸枝 |
| 四月  | 春宵や灯る城下の格子窓    | 豊田 級衣 |
| 五月  | 青葉風後樂園から鳥城へと   | 谷 久乃  |
| 六月  | 梅雨茸百葉箱は雨に濡れ    | 永井麻紀子 |
| 七月  | 亡き姉の残像えがお梅を干す  | 原 鈴子  |
| 八月  | 人騙しうらじゃ祭にまぎれ込む | 古川 麦子 |
| 九月  | 名月が吾を石仏にしてしまふ  | 堀 節子  |
| 十月  | 銀河懸る湾に育ちしカブトガニ | 西村 寒蟬 |
| 十一月 | 美作の棚田を守る案山子かな  | 目賀 紀子 |
| 十二月 | 那岐山の風に研かれ吊し柿   | 保田 紺屋 |

## 私の感銘句

佐野 由魚選

揺れている味付け卵聖五月

豊田 綴衣

聖母マリア様の聖なる月とされる爽やかな五月。味付け卵というのは、おでんの汁の濃い色のついためで卵を連想します。その不安定な、つるんとした感じが、妙に五月という季節に合っているとと思いました。

進化論とどのつまりのなめくじり

藤野家ひろ

ヴァレリーの哲学論集の中に「人と貝殻」という文章があつて、巻貝を一つ手にとつて眺めていると、誰がこの美しい造形を考えて造つたのか、不思議な疑問が湧いてくる、というところから考察が始まり、結論として、私はこれをごみ箱に捨てる、というものです。この句のなめくじりから、そんなことを思い出しました。

あめんぼの「ん」の力で浮いている

古川 麦子

「力で浮く」の「力」が大事なところですよ。見て取りましたね。生きとし生けるものはすべて、この踏ん張る「力」で命を支えているのですね。

## 私の感銘句

万波 照世選

早苗田の水の豊かに一揆の地

高村 篤青

江戸時代の美作国では年貢米をめぐる一揆や騒動がしばしば起こり、処刑者もでていた。作者はその地に立ち早苗田の育ちゆく様を見ながら感慨にふけつていられるのだろう。豊かな水に恵まれたこの地では当然のように繰り返されていく稲作。だが、過去の農民たちの闘いは忘れてはならない歴史である。そんな願いがこの句には込められているように思う。

緑蔭のベンチへ疲れ置いて来し

塚原 恒子

巧みに詠まれた句。強い夏の日差しの中、歩き疲れた体を引き摺っている時見つけた緑蔭。ほつとして腰をおろしたベンチは涼風が心地よく汗も疲れもとんでいく。再び歩き出した作者は元気を取り戻しており足取りも軽い。一時を切り取った句であるが、中七下五の見事な措辞により、前後の情景までまるでドラマのように浮かんでくる。

進化論とどのつまりのなめくじり

藤野家ひろ

面白い発想をしたものだ。下等生物から高等生物に変化するという進化論。が、作者は、最低限の機能で生きていくような「なめくじ」に終結するという。ああだこうだと言ってみても欲を出してみても終末は誰しも「なめくじ」、そしてそれで十分なのだ。自嘲かもしれない。だが人生を達観している。そんな境地に辿り着いている作者が私には羨ましい。

## 私の感銘句

加藤 正枝選

広げたるイラストマップ黄落す

花房八重子

「次はどこに行く？」とベンチに座り、イラストマップを広げてお友達と相談中に黄色の大きな葉っぱが落ちてきました。はじけるような笑顔と笑い声が聞こえます。イラストマップの色までも見えるようです。早くイラストマップを友と開く日が来ますように。

空に描く弧ののびやかに夏燕

高村 篤青

なんと気持ちのよいお句でしょう！

真つ青な夏空を黒に白の燕が飛んでいきます。子育て真つ最中の親燕、または巣立つたばかりの若い燕かもしれません。「大きな弧」に自然の雄大さと命の尊さを感じました。

新涼のカーナビの声よく透る

土屋 鋭喜

新涼の高原でしようか？美しい緑の木々に清々しい空気。車の窓を開けてのドライブ。空気がおいしい。カーナビの声が響き、目的の地が近いことを教えてくれる……私も一緒にドライブを楽しむ気持ちになりました。

## 諸家近詠

目賀 紀子

天野 光暉

「のりちゃん」と呼ばれふり向く冬日和

湯たんぽや寝返る毎に変はる夢

寒風や廃屋の車庫五時のまま

さくさくと霜踏む音は母子かな

はぐれたる猫をかくまふ枯野かな

霜の声沈思の枕硬からむ

瘦身のわがしはぶきを怖づる妻

着膨れて飲む珈琲のアメリカーン

美人画をそろり捲りぬ新暦

ジーパンの古きを愛す探梅行

榎野 眞理

森田 景

池上栄実子

寒晴や紙ひこうきは願ひ乗せ

村あげて送る生徒や卒業歌

虎杖に缶蹴りの缶転げ来る

主なぎ部屋梅の香のほのかなり

春菊の青き香散らす母の粥

六段の大灯籠や冬木の芽

更新の免許写真や去年今年

新聞のどざり飛び込む初明り

玉砂利を牛歩でつづく初御空

氷上の五輪に描くエッジ跡

万波 照世

保田 紺屋

伊藤 昇

田の風の透き通りたる梅雨の明

ジーンズの穴作無作為夏来る

家の中に家ができた蚊帳の子

主亡き放置田花野となりにけり

山高帽にマントとルーペ名探偵

ベッド下の平凡パンチ黴匂う

金魚玉吉原炎上映りをり

曼珠沙華造影剤に浮き上がる

軽トラの形の雪の動きけり

生きてれば丸儲けやで初笑い

三村 榮一

秋岡 宣子

稲田マシミ

青春の瞋りを捨てに春岬

北条へ急使の騎馬や春疾風

寄席拍子遠く響きて春めける

猫抱きし三鬼津山の草萌ゆる

春の暮れ誰も唄わぬ子守唄

無窮の声聴く鼻の半眼

啓蟄や鳥が話してゐるやうな

一群のほだけてゆけり残る鴨

春光をよろこぶ海鳥の一列

置き去りの家鴨の一家春の雲

瀬戸内の旅の始めや桜鯛

末黒野や雲の影追ふ雲の影

黄砂ふる地球は今日もきな臭い

乳呑み児の言葉溢るる春の川

ふらここに乘れば忽ち行く昭和

やすらぎの色かもしれず枯葎

枯葉舞うスクランブルの交差点

寄合や上座あたりの隙間風

風光る学生寮に異国の子

小流れが村の境目猫柳

対岸の見える安心浮寝鳥

岩田 志乃

いつもより甘めの紅茶花疲れ

花の山ひかりをあつめ散り始む

桜東風鞆一つで赴任せり

ただ生きて死んでゆくのみ曼珠沙華

右手 采遊

モナリザの眼差にある恵方かな

乳母車河岸の桜吹雪く中

フクシマの復興ピアノノ春の曲

猫の耳小さな秋に反応す

空間を自在に占めて吾亦紅

畦田 恵子

啓蟄や土のこぼるる子のズボン

さくらんぼ旅の話をしてみよか

夏ともし藍絵のごとき街にゐる

涼新た手話を駆使用する若者よ

床拭きの見ゆる手力淑氣満つ

片岡 陽子

身ほとりの雑音今も花馬酔木

小雪舞う指輪外してそれつきり

煮凝りを崩し過去には触れずをく

チューリップあの時隣りに美少年

駆落し未知の入口笹子鳴く

初空へ鳥は一途に隊を組む

加藤 正枝

風花にじゃれて狛犬動きそう

宇野みなと線のレール春光きらめかす

春立つ日リップピンクに出勤す

しだれ梅纏れもつれて風纏れ

岸本 順子

紋白蝶もつれもつれて祠まで

坂道の風ふくらます螢袋

五月晴れ瑠璃の使者くる街はずれ

風光る宙舞ふ翼蒼くあをく

ゲゲゲーと声うはずりて仏法僧

木村ゆきこ

沈丁花門灯点る頃が好き

利き腕をあづけてよりの朧かな

春の月だれか戻つてくるような

警策にほぐれやすくて落の臺

春愁や片手でほどく靴の紐

清中 蒼風

恙なる身を二ヶ月の風の中

しんしんと音なく繁く春の雪

住み古りし庭にほころぶ梅一輪

囀りや古き祠の小賽銭

過ぎし日の夢のあれこれ春の雲

凍滝へ野猿は木から木へ跳べり

國定 義明

老いびとに八方破れの空つ風

まだ生きるつもり三年日記買ふ

卒業の記念に五人の手漉き和紙

アパートの裏の空き家の忘れ花



### 令和四年度 総会のご案内

日時 令和四年四月三十日(土)

十一時～十二時

会場 岡山県ゆうあいセンター

(きらめきプラザ) 大会議室

岡山市北区南方二丁目十三一

会費 千円(昼食費他)

(旧国立病院跡) 駐車場有り

#### 議事

- ① 令和三年度事業報告・会計報告
- ② 会計監査報告
- ③ 令和四年度事業計画案・予算案
- ④ その他

#### 報告・連絡事項

- ① 新会員の紹介
- ② 第四十回中国地区現代俳句大会  
総会(岡山県)
- ③ その他

◇総会終了後、持ち寄り「ミニ句会」を開きます。  
投句用紙は当日受付で投句。

### 第四十回 中国地区現代俳句大会ご案内

とき 令和四年六月十二日(日)

十時～(受付九時)

ところ 倉敷市「倉敷アイビースクエア」

TEL (086) 422-0011

会費 一万円

総会・勉強会・俳句大会

### 第五十九回 現代俳句全国大会

とき 令和四年十一月十二日(土)

午後一時～

ところ 北九州市・

JR九州ステーションホテル小倉

### 令和四年度 行事予定

#### ○総会

四月三十日(土)

岡山県ゆうあいセンター

#### ○第二十七回現代俳句大会

十月二十三日(日)(予定)

岡山県ゆうあいセンター

#### ○第二十三回吟行会

十一月初旬

吉備津彦神社周辺(岡山市)

#### ○通信句会

毎月第二日曜日0時投句締切

### 事務局・編集部だより

▽会報五十一号をお届けします。ご多用中、原稿依頼にご協力有り難うございました。

▽コロナ禍の中、昨年の俳句大会、吟行会は無事実施することが出来ました。通信句会も、はや二年めに入り参加者も増えていきます。

四月の総会にはお元気にお逢いできますよう楽しみにしています。(前田 宏)

▽今年の中国地区現代俳句大会は岡山県担当です。青鳶の茂る倉敷アイビースクエアへみなさまのご参加をお待ちしております。(木村ゆきこ)

▽令和四年度会費の振込用紙を同封しました。よろしくお願ひします。前年度分までの未納の方は合わせてお振り込みをお願いします。(薄 和子)

#### 会報他受贈深謝

各県、各地区より会報、句集等、贈呈いただき有難くお礼申し上げます。

### 現代俳句岡山・第五十一号

令和四年三月三十一日発行

発行責任者 木村ゆきこ

発行所 岡山県現代俳句協会

編集人 前田 宏

事務局 ☎七〇〇九七五

岡山市北区今八二二八三〇二 前田宏芳  
TEL・FAX (086) 2461076 二